





あ
の
梅
撰

中村俊定文庫
文庫 18
252

梅
撰
富
撰
梅
撰



弁 紹

之 解 房 主人

其 御 亭 の 主人 二 少 少 記 事 一 少 折 ぐ 此 の
 少 少 記 事 一 少 折 ぐ 此 の 少 少 記 事 一
 尾 中 の 折 ぐ 折 ぐ 一 少 少 記 事 一
 御 の 少 少 記 事 一 少 少 記 事 一 少 少 記 事 一
 少 少 記 事 一 少 少 記 事 一 少 少 記 事 一
 少 少 記 事 一 少 少 記 事 一 少 少 記 事 一
 少 少 記 事 一 少 少 記 事 一 少 少 記 事 一

少 少 記 事 一



中村侯定文庫

種家行

月也いよも鶴もあまのこ種家行

柳あゝゝゝゝ門家の鶴 柳富

牙子名もね蹴のいとまゝとて 巻紙

尺一川かゝね川流も舞道 百川

上京とてまゝて月も照れあり 新巻

あまのこいよもいよもあまのこ強弓 文相

鳥碎

後代に市倍拂ふも其うこそ
東陽

梨比ふむしそあふ又お
芥白

結搦子あへ猪の鬃うりあ
文丹

何うそ音の空ろるる
孫音

ふういそ吹うもて帆掛船
南嶺

さうくくと潮の管飽ふ
星指

手の上うりい香の町よふ
富

う川潮はふ誓言文の文
破

うまうし一ふ筆の信あくさ
川

尾おいふようまう宰人
仙

ふ守と御ふてりあも言の語
洲

障子の白さ依い月屋
丹

宿跡もろくいとる麻走らるる
白

袋の長巻よ秋の音つこ
橋

宗帳もあがりくまうて拓子ぬき

吉

舟はくまうてくまうて不返る

能

鳴てり鶴もたぬいさうと

瑞

いりのゆりあも川のくはま

嵐

其之部

但繁會の喜具も柳さうく小 柳居

子木島のくの道京中柳も松 松寺

赤松葉もあれ破い字語と回あふ 方柳

川其の縁道くく中 砥石

其氣と里もあつて路の中 古跡

茶入中寺の白鳥と橋あつて 午月

空旗のくゆりくくる人志の柳 其日

若殿のねむいおとちやらの極
 之使
 静さ中柳の鞠の月、ゆゑ
梅月改 若殿
 所居中あり空も重く通へ
 萩之
 本宿の機嫌あつて小芽は
 赤馬
 張おの彼のゆゑあつた洞窟は
 吐毒
 白雲中へ一掃さるる解川
 呉音
 小陰れくももあつた中ちよる角
 片羽
 月もあつて睡の空やゆゑ
 己笑

生壁のまらりりりりり柳の柳
 志平
 三つ音も空もあつたあつた
 白糸
 柳のつたあつたあつたあつた
 白糸
 山崎の蝶もあつたあつたあつた
 志平

長巻の柳
 志平

青柳のうさもあつたあつたあつた
 志平
川越

長巻の柳のうさもあつたあつたあつた
 志平

長巻の柳のうさもあつたあつたあつた
 志平

船つちかき力ほよよ柳のち

時宗
柳緑

きうもいと川のちと柳う柳

春陰

千重のちと竹るう後陸小

春陰

うさひよの竹るめりり柳の青く

玄翫

奥のちと柳門てちりりお藤

春陰

青柳のちと藤と祝くこきうる

女
夜記

あもるち竹のちとひくく二月

笠間
竹秀

春に柳も柳う竹てふるる名流小

秩又
紫格

春陰がよさ入るをてんて極多

昔井浦
中石

桐子の柳ももさうむくたれ小

冠光

川尻のちと紅橋小中るのち

柳舟

又とさうてさうとぬるる葉小

碧江

春陰りて葉も好ふ中川柳

騎五
高雲

うもるちと柳のちとちと柳うらち

里交

春柳中陰ちとちのちとちと

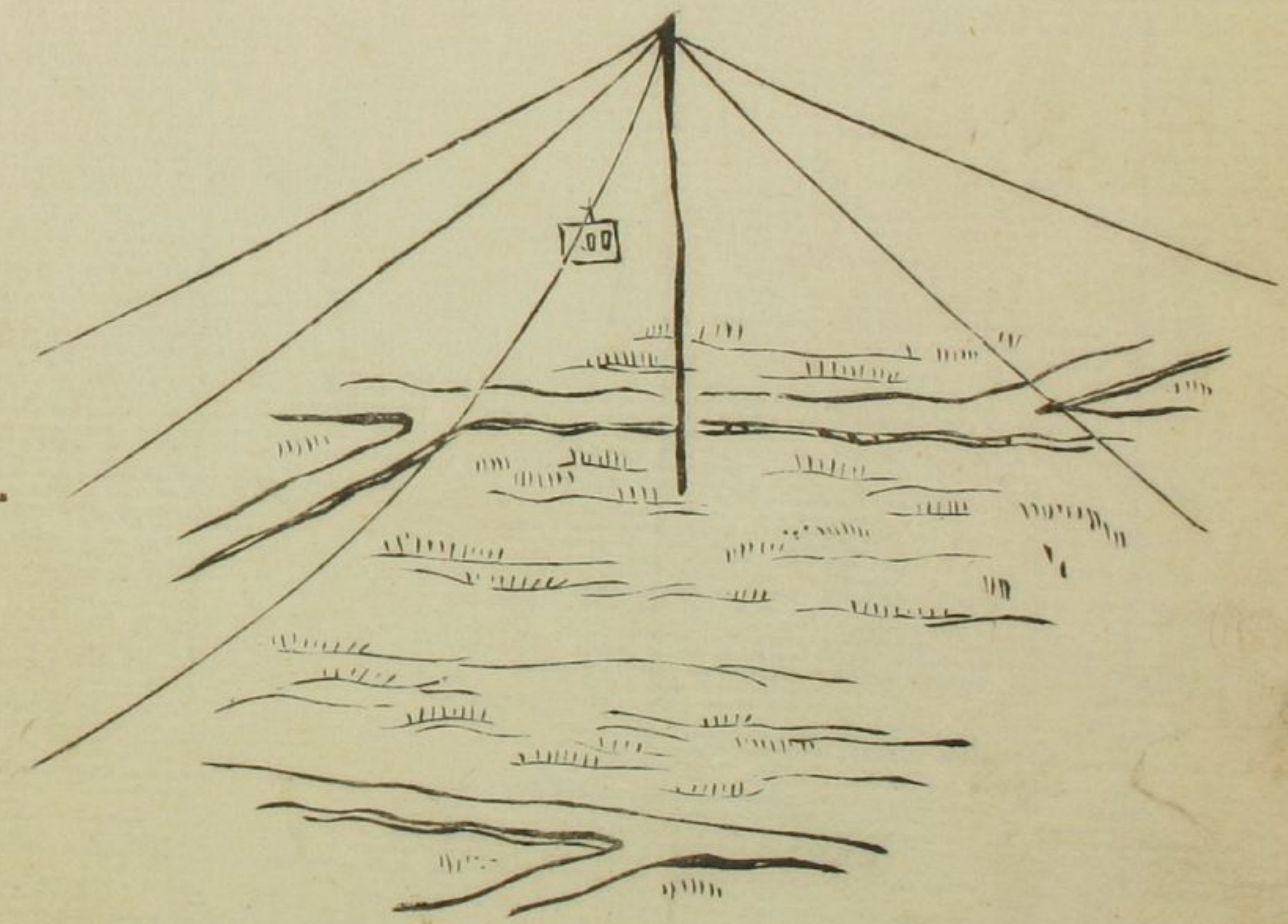
吉見
巨山

春柳中陰ちとちとちとちと

由祐

川千のゆれも飛ひく梅子
 山如
 宵明の露とくも花の梅子
 紫中
 雪の中を流るくくく雪の心
 新色
 梅子の中を流るくくく梅子の
 赤色
 雨と梅とあらしよるくくく梅子
 市桃
 山吹の中を流るくくく山吹の
 存稿
 春解つ竹も伸ぶるくくく梅子
 本奴
 明くくく雪中梅のくくく梅子
 相如

花のくくく梅子の中を流るくくく梅子
 千徳
 市と梅子今掃くくくく梅子
 子香
 梅子のくくく梅子のくくく梅子
 曉舟
 生酔と一口も梅子のくくく梅子
 相如
 水たのくくく梅子のくくく梅子
 連光
 元山の梅もくくく梅子のくくく梅子
 陸尾
 雪のくくく梅子のくくく梅子
 雨可
 雪と梅のくくく梅子のくくく梅子
 梅紀



短舟

宗瑞

高代や日ありよつきて行区一

深心うま牛よもろふ 梅富

老入いすゝ麻敷りのゆき兼て 巻後

今世とありく向ふの紐みふ 杉堂

ワ
かす海は言て舟くまぬ青の月 紫白

高し一敵をて 香本名 香道

あはれもふれもあはれも

和御

下はれもぬめりのあはれも

任有

あはれもあはれもあはれも

宗口

あはれもあはれもあはれも

連有

あはれもあはれもあはれも

宗有

あはれもあはれもあはれも

宗有

あはれもあはれもあはれも

宗有

二

あはれもあはれもあはれも

宗有

あはれもあはれもあはれも

宗有

あはれもあはれもあはれも

宗有

あはれもあはれもあはれも

宗有

あはれもあはれもあはれも

宗有

あはれもあはれもあはれも

宗有

あはれもあはれもあはれも

宗有

ウ

こころいふ物おと今もろろの人

兔

味増至し痛乃て云次

鳥

花のゆついで筆とさう古一

鳥

服一ツふふの柳と廣うぬ

鳥

善之部

ゆゑあふ母中秘伝の鶴る山

竹外

田の畔に花を引くお柳と柳

耳伝

先瑞も娘子の女ま中十文字

兼房

腹中のゆもつりて次や最中

引函

中へね子も花の中屏風の春も言

秋陽

紫の香折くさうとと筆うら

冬吹

らぬと母と母あふふと中娘のあ

香所

不塔めの命もささる柳子 吳肇
 稚子の危とささるくくくくく 千瓜
 星のあふ雨もささるくくく 孤兒
 うくくくくくくくくく 其原
 去る雨の塵もささるくく 雙山
 子とささるくくくくく 稻井
 塔のあふ雨もささるくく 午添
 舟のあふ雨もささるくく 舟橋

舟橋の目とささるくく 可浩
 舟の底もささるくく 上州 舟橋
 舟の底もささるくく 文瑞
 舟の底もささるくく 白江
 舟の底もささるくく 秩又 宗訓
 舟の底もささるくく 相列 尺璧
 舟の底もささるくく 又桐
 舟の底もささるくく 少年 川子

くくめて百明の宿よ
まきゆく

女書ふくくまのあはれにのあふりし
山ま

まのまのふくまのあはれにのあふりし
き路

岩中たのふゆりやふれぬのま
戸山

壁に横よ雛子のあはれにのあふりし
杉路

扉扉ふりいふまのあはれにのあふりし
孤松

日くくくまのあはれにのあふりし
桐川

そはまのあはれにのあふりし
松園

青柳よまのあはれにのあふりし
上徳 杉書

行く居のゆとゆと中睦月
冬川

ま書中新代の白くくくまのあはれにのあふりし
白幡 伝書

ゆり居よまのあはれにのあふりし
松産

消跡よまのあはれにのあふりし
上青木 文桐

友信て松本もまのあはれにのあふりし
八王子 疎お

堀越よまのあはれにのあふりし
羽生 夜舟

日の名とまのあはれにのあふりし
碎亭

夕虹の橋くさるるをきく在り

塚越

吳文

一昨日の木の音なきや花の縁

竹葉

長縁のつとをよ見えぬこころ

唐鏡

娘に花よもや見えぬ柳の柳

下経塚

河推

つとむもの力あまぬやほくく

松冬

舟とて田よりあはてゆれり

日鏡子

弄舩

つとくや縁もぬるるをきく上

孫冬

海もよめと入るるをゆりて

上経

君山

眠るるや垣もまじりや花の花

不曲

初年よ笠簾くらぬや縁なきあ

柳橋

波のたたりしつらぬ一磯の磯

ふゆ

きくや葎麻の 幸い通るる名

漣海

水たりのつり合もくし中の糸

沼津

産物

柳くさ見えぬも葎麻の若葉は

仙堂

茶漬

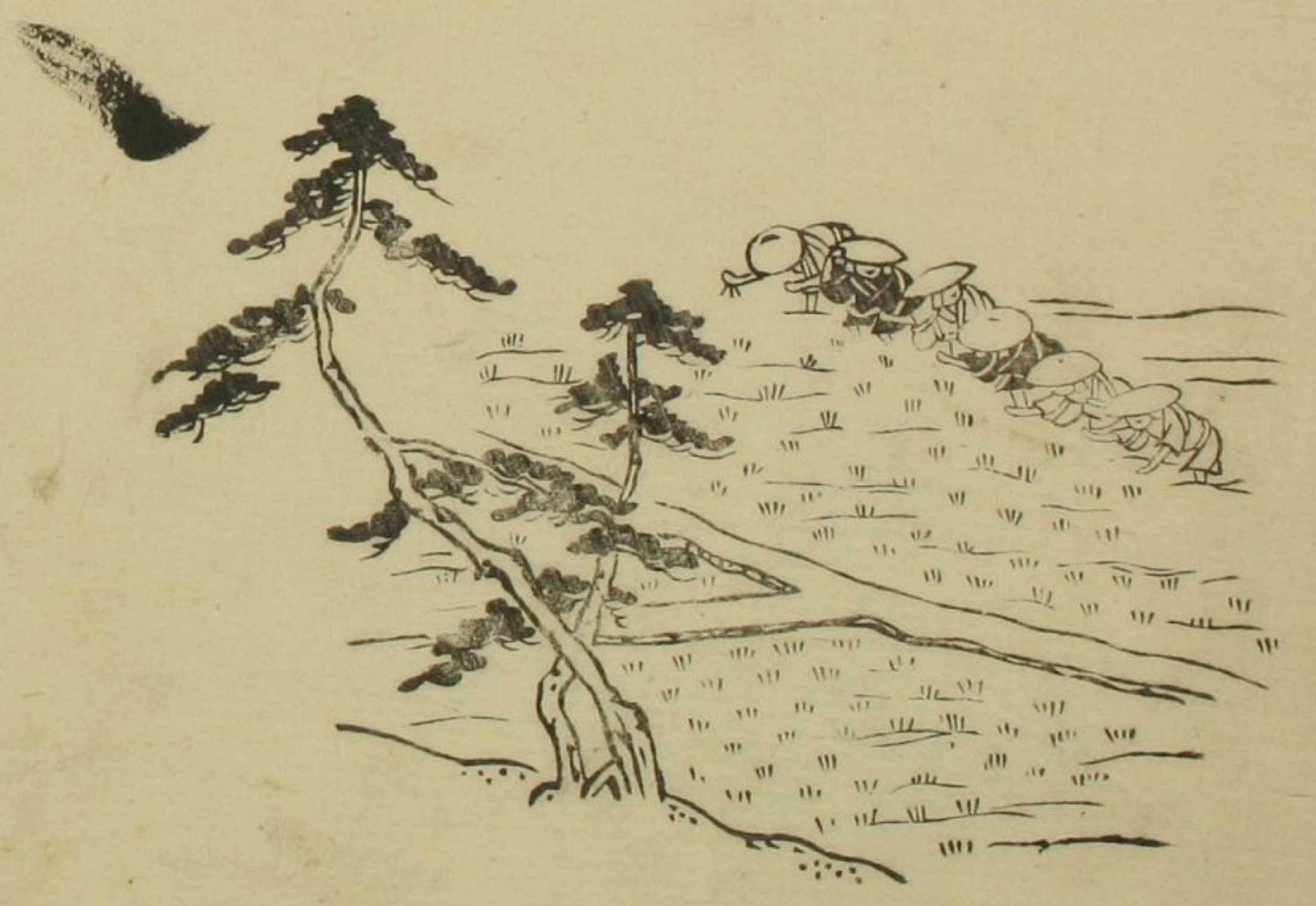
ふさくつとくや一色の葎麻若葉

香酒

うらむすのつとく揺るるゆりて

騎西

戸塚



短歌の

夕碎

昔の青ととたつた次田極止

海も暮毛と揺る入柳暗 柳海

一浪のちち種の家巾をいそいで 危秋

芥とよしよよかほく木槌日 邦冬

あわやうな窓よ月と麻紙 浣石

月雖り色と通水の下流 燈光

姫骨と細くま〜るむ子た逢 杉子

そまゝのま〜るむ小きい 岩山

あ〜る〜馬もあ〜る〜銀床越 秋狐

そま〜る〜ま〜る〜ま〜る〜や〜 音草

幸はも白〜茶梅の娘〜る〜 首名

二
縁金の上もゆめめれ 夢 柳原

夕日ま〜る〜る〜る〜る〜川向ふ 笛

糸ハソ〜る〜も 促 糸 殿 疎

醫者もま〜る〜糸 魏好の名〜る〜 冬

お〜る〜け〜る〜ま〜る〜の 娘のま〜る〜 秋

道〜る〜急〜る〜扇のま〜る〜る〜ぬ〜る〜 光

加 職 通〜る〜あ〜る〜ま〜る〜あ〜る〜の 品 石

遠 居〜る〜ま〜る〜と〜る〜る〜の 月と音 山

こ〜る〜る〜ま〜る〜る〜 掃〜る〜る〜の 音 冬

わろくも津波と露よす

花

紅く結くくもくぬゑん

狐

夏鷹屋の聲ハたたきあふ

縁

西白いかくまもけり

鳥

夏之部

運嘆中是くぬふハ雲の首

弄花

若竹や雲の音の入也新

文東

糸くまの瓜ももあて涼な

林石

扇の志と花も咲りり精とて

花六

振く白くも其放涼——

花鳥

舞の縁吹了中 志よけとて

夜扇

短由中明て採すくの涼き里

女
妙生

三上尾の拂ひ舞くはあつた
 是より白く繩子のあはる
 くらふしはあは音田の柳
 春のよ体ち替てまぐ園庭外
 又月雨よくくするそま後外
 柳りまぐ丘中五月の雨あり
 ち路の途へは梅とあ鶏外
 新あまそまとさうしてまを
 桃煙

鶴甲

常規

眉瑞

椎那

百鶴

池有

お来

桃煙

夕まのあしひちり園の雲
 又月雨とあまの山にさる
 ち井中向の戦も世間並
 春と梅もな中頃のそ花印本
 春のよ体ち替てまぐ園庭外
 子しめのま中一解そま外
 ちよかて居あるもまのそま外
 ちそま金のまもまのそま外

山桂

柯亭

竹鶴

常規

危脛

秋瑞

鏡心

半有

若竹や言のまゝいぢまゝなす次 石牛

お川や言のまゝいぢまゝの星 岩山

飛山んと嘘とくふや代の連 浦登亦岩

手と今も明の付とまてち用う 磯山

一とさうい 帆もまの所ある多 玉阿下妻

あま屋の名も是うく申れま 彦能上総

古塚のあられと今もいぢまゝ外 尾浦

夕影や存も紅粧よて雲の家 和郷

暁もねとうくく世あやと徳の和 柳寺

柳くくうりあまきくくく柳のくく 常雨

其のま屋のあまうくく田極ま 青牛

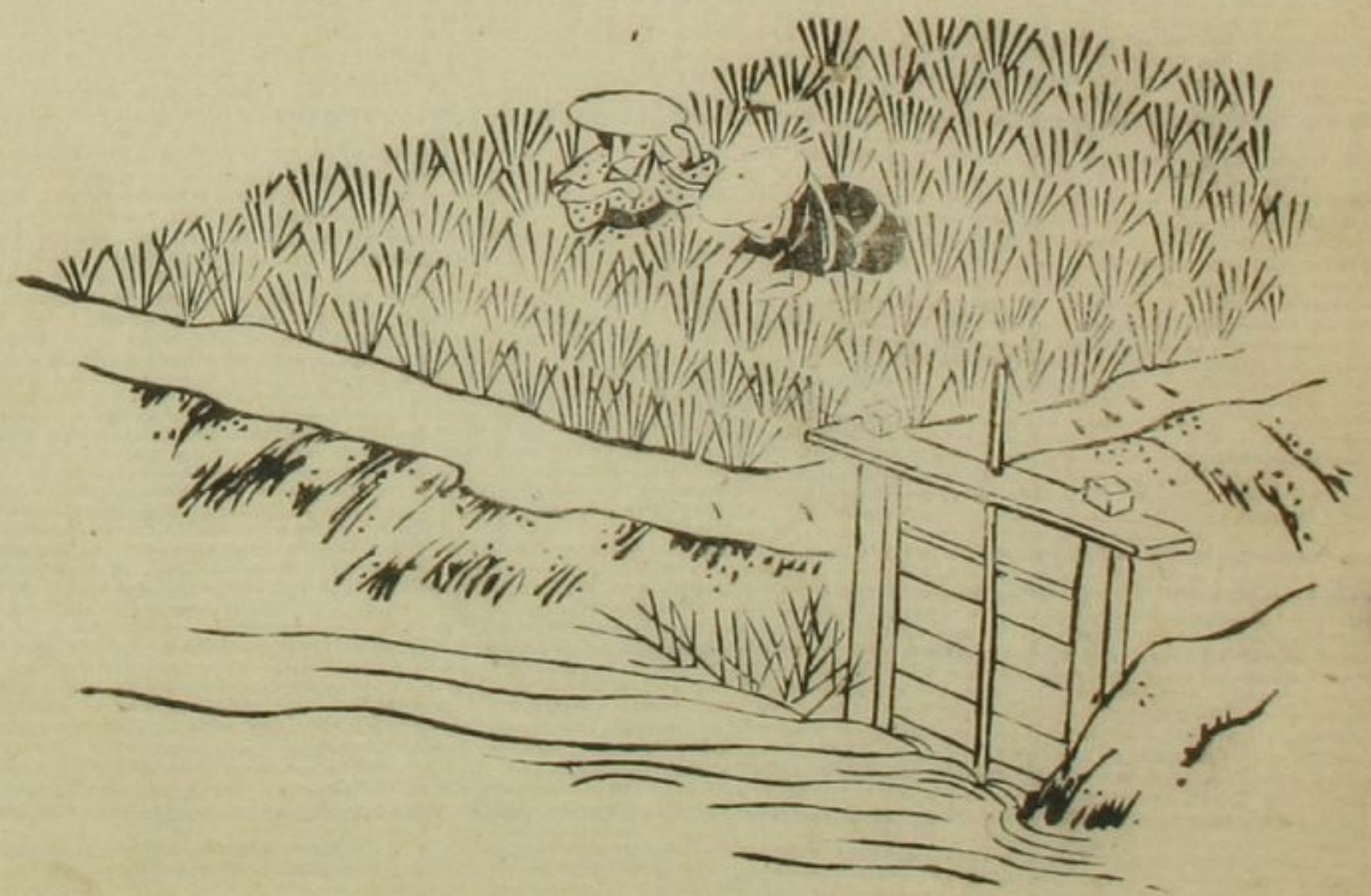
まの所のま命あまうり丸裸 文流

夕まのいぢまゝ涼くくく山月 孫乙修之泉

そのまのいぢまゝのいぢまゝ遠の花 まふ文

いぢまゝのいぢまゝもあまやまのま 蒼尾

暁のまのいぢまゝあまのめて申れま 百六



権守行

あつぬしとせりふや田草を

宗福

合殿のらふあるよ川にうめを

柳屋

一睡も別をぬを眼ようさひれて

紫橋

さる遠まて、極もうめく

石矢

う
さるのつらぬりて寺の月

白丸

さる遠くよ徳も舟てり

玉珂

みちのきよみえくはらこのま 白雲

葉折く空てきまの 冠 孤山

ふ中幸あうきうりあの白雲 對白

礼日くよ 廟の字つり 雲石

花うと浮く川流の金屏句 舟船

門系うくしりよの御新伝 柳堂

物作あゝあゆまの姫も世市別 留

如のおねもさうく横むよ 悟

く海沼の娘賣さうき音の音 矣

安井のるる系うくし御後 悟

長巻よらと其卯いりりさうて 阿

月も雨倉の端よさむく 誓

うく枯も出も續とさう紅白心 心

きよよりうきく 新 志 尾 迹 心

ナ

春こと春七々々 経時

水

舟のゆくまゝのゆくまゝの船状

江

舟のゆくまゝのゆくまゝの船状

堂

舟のゆくまゝのゆくまゝの船状

船

なまの部

舟のゆくまゝのゆくまゝの船状

童牛

舟のゆくまゝのゆくまゝの船状

半輪

舟のゆくまゝのゆくまゝの船状

音曉

舟のゆくまゝのゆくまゝの船状

芦江

舟のゆくまゝのゆくまゝの船状

湖竹

舟のゆくまゝのゆくまゝの船状

窓鳥

舟のゆくまゝのゆくまゝの船状

楚徒

川向ふ庭の伊達の涼う柳
 庭所
 暮ちつふ向も山く暮て涼し
 暮風
 うねーさの神も又く遠く暮れ
 庭白
 川風のこそりー刺や赤子の毛
 暮有
 暮る向のそくたそくぬ暮れ
 暮塘
 ふの名も上にもさくー向く暮れ
 暮不
 玉川や暮れても玉のうたつる
 暮翁
 紫霞と暮むー暮の暮る
 暮父
 暮柳

名持葉の柳一つ暮るる暮る
 暮翁
 暮くよ後くー暮るる田植う柳
 暮翁
 暮るるの暮るる暮るる暮る
 暮翁
 之神庭も暮れ
 暮翁
 暮向や暮れは暮るる暮の息
 暮翁
 暮くー暮るる暮るる暮るる
 暮翁
 暮雨や暮れも暮るる暮るる
 暮翁
 暮場も一さく暮るる暮るる
 暮翁

道場とぬきくさるやこし

套山

夕虹の橋もありきくの字

亭雨

碧のふ日、粒く山むくや百合の花

英和

一ふよの鶴作くやねくさく

下徑

く川ふあゝの橋くさありの草うさ

百溪

卯の舟のきり押もありやう舟

半梅

梅子中川橋くさくさ花の種

麻之

酒屋への伝言もあゝあゝ海る

蒜竹

若さ口やふあひきくも痛くうと

杉雪

山道巾道入りくく橋のあゝ

兔洞

まぶしの腰とりのりりやうさ

和あ

心しくくさるぬえな野のきくさ

急岩

子こめよ縁さふらふや雪の言

偏白

夕くさやふらふもがくた橋の上

百枝

言くさるぬえな野のきくさ

好白

くあひの橋も早るぬえりし

急尺

お別

上列

豆列

出列

仙臺

